

平成28年度 施政方針への総括質問 答弁 再質問など

連合市民クラブ 津田加代子

【市政運営に取り組む決意】

- 1、 市長就任以来の懸命な市運営の中、やり残していると考えられる課題について
 - ① 一例としての財政健全化の課題について
 - ② またそれ以外の課題について

1、答弁

- ・市民と共に・・・市、議員、市職員と手を携えて・・・自治基本条例の発想？・・・今はなし。
- ・第5次総合計画、5つの重点プロジェクト
 - 1、 地域分権（平成27年スタート）
 - 2、 次世代複合施設とし、キセラの流れ、
 - 3、 親元近居
 - 4、 健康マイレージ、健康体操
 - 5、 魅力発信
- ・市に集う人々に、幸せを感じていただける方向を模索しながら、市の運営をしてきた。

↓

市調査、市民は「家計・家族関係は上位。健康状態を上げた。」

内閣府でも同様の結果→健康施策の重視。人とのつながり・生きがいを感じることが重要。

- ・市民本位のまちづくり
 - 市民ニーズの捉え方・・・参画協働のまちづくり推進条例
 - 市民の力を発揮できるよう市がサポートする。＝ 地域分権

-
- ・**財政健全化の課題について**・・・健全化までには時間を要した。平成19年以降の学校耐震化工事が何よりも優先とし、公債費を発行しての運営と基金の取り崩しをしての運営となった。しかし平成26年11月公表してきたとおり、公債費は今後減少していくとみられ、平成30年度基金取り崩しゼロの目標を持た。今後も粘り強く、着実にやっていく。と答弁。再質問なし。

- ・**その他の課題について**・・・超高齢社会、人口減少社会の時代になり、地域分権・ふるさと団地の再生・健康施策に取り組み、川西の魅力を知ってもらおうとシティプロモーションを行い、市内外に発信をすること。

- 2、**答弁** 社会情勢の反映として、川西市の「経済的格差」の実態について、とりわけ「子どもの貧困」視点についてのお考えについて
国全体の解決課題である。市としては、すみ分けて対応していきたい。

津田から、異論発信。第2質問 貧困などの、川西市実態調査するお考えはないでしょうか？

先の12月議会の一般質問に挙げた項目でもあります。その折に健康福祉部長のご答弁で

は、市として、作成するのは難しいとの判断をお示しいただきました。

しかし今日、自治体において、そこに予算をかけて実態把握を試みるどころが出てきております。それほど深刻なことだと考えます。奨学金を貸与から給付に移行していく自治体が増えていくなど、人口減少に歯止めをかけるため、教育施策に賭ける自治体が増えています。住み続けたい、住んで元気になれる自治体に名乗りを上げていけるきっかけともあると思います。他市が行っているからひき続いての発想ではない、川西流の切り口を探るためにも本腰を入れた調査をかけて実態から学ぶことをして欲しい、幸いにして本市には、「子どもの人権オンブズパーソン制度」があります。ここには多くの子どもがSOSを出しておとずれていると思います。この視点で、オール川西として、オンブズパーソンとの協力体制の下で、川西市の子どもの状態を調査をかけていく策についてのお考えを聞かせてください。

第2質問答弁 オンブズは、相談があってから後の対応を行っており、そのことからの実態調査の把握は難しいのではないかと。連携は大事で市教委を通しての連携は十分に行われている。

津田からの最終質問。 統計としての数字はともかくも、相談案件を通しての川西の状況をつかむことはできるかと思えます。オンブズパーソンは、全国的な状況を熟知したかたがたでしょうから、川西としての特徴など分析できているかもしれません。どうかこの点について意見交換を行っていただきますように要望とします。

3、答弁 「人口減少社会」に向かう今の市政を預かる市長のお考えについて

年内出生数を1000人を維持。そこを元に算出。2060年11万人の確保を予定。容易ではないと思うが、目標を掲げて進む。

平成32年には、15万1000人と目標。(この数値は国勢調査の数字を基にしている。)平成26年実績人口は、156481人。

第2質問 改めて、本市に対してのこれまでのご努力に対し、評価をい

たしました。

実は、先週の土曜日、2月27日の朝日朝刊で、1票の格差について、「衆議院兵庫6・7区で、2倍を超える」との報をご覧になったお方がおいでかと思えます。その際、各自治体の人口が掲載されておりました。2010年と2015年の国勢調査の報道からとしてありました。そこでは、なんと川西が踏ん張っているではないですか！

この5年間の伸びは、阪神間の各市町では、芦屋・西宮・伊丹について、**川西市**が。2202人・5507人・913人・**58人**と。踏ん張っているではありませんか！いろいろ試行錯誤を重ねながら、あえぎながら、たったの58人と、**ほとんど横ばいと評価されていますが**、他の市にいたっては700人から1500人程度の減少を言われている中です。何とかやってきたと評価をしながら、高い決意の達成に、気持ち新たに取り組んでいこうと思えました。数字の一つ一つに一喜一憂すべきではないでしょうが、ひそかに、よし！！これでいい、自信を持てる数字として、記憶にとどめておくといいなと思いました。**改めて市長からのご意見を伺いたいと思います。**

第2質問答弁 58人の増加という数字ですので、大いに喜べる数字でもないですが、近隣市の状況を見る中で、減少の市もあることから、この方向でよかったのだと思います。

＊＊ここで他の議員の質問でもありましたが、人口の推計で、住民基本台帳からのもの、これは川西市役所玄関に日々掲載されている川西の人口ですが、2016年1月末では、160028人で、2015年度の国勢調査では、川西市の人口は、156481人となっていた。約3000人の人口が？？。ですので、こういった人口動態を語る際には、国勢調査のもので語るとか、統一したデータであるべきで、数字の出所をしっかりと記述しておくべきであると感じました。

4、答弁川西市の魅力を市内外に発信する2点を戦略とした考え方について

① シティプロモーションの展開。

②**健康施策**であると述べられています。この2点の**戦略**で実践していったら、本当に的確にその目標が達成できるのでしょうか？

転入・定住人口の増加を求めたい。市の魅了を知っていただき、すみたい、すみ続けたい。そんな方が増えてほしいという意味と健康で長寿である人の多く住む市であることをアピールし、川西によってきてほしいという意味である。

第2質問 戦略です。戦いです。その戦いに勝って生き延びていきたいとする作戦です。

都市間競争という言葉も好ましい言葉とは思えませんが、あえてその言葉を使って進めていくぞとされている中で、2つの柱だけでは、弱いのではと思うのです。

知ってもらおうという仕掛け。「川西市ってこんなところ」を知ってもらうために、披露していく。シティプロモーションで。しかし知って、川西に流入してくれて人口増加の一助になっていくための戦略。市民が幸せになっていければ、人口増加になるのでしょうか？すみやすい、そう感じるのはどこからなのでしょう？

私は、二つあると思っています。今年度予算の新聞見出しには、「子ども子育て・教育に重点」という見出しが上げられていましたが、こういった戦略がここでは上げられてはいない。そのところが、何かしら、理解しにくいように思えます。

津田の考えを展開しますと、生産人口を増やしていくこと。子どもの存在があります。若い世代、子どもを持つ家族の流入を期待します。その即戦力が、親元近居制度。今さらながらこの施策は的を得ていると思えます。しかしこれまで3年間、どこまでこの施策に頼るのかとも思えるほどです。今年も残された事業です。人口減少させない、流入していただき安心を得ていただく、幸せを感じていけるのは、「子どもが元気であること。」ならば親も元気になれること。そうするためには、「教育・義務教育学校の施設設備の充実」と「生きる力の獲得」が、当然のことながら、最重要課題であると思います。そのひとつが中学校給食として、市長は公約にあげられているのかもしれませんが。自校方式で小学校と同じような調理をしてと。

加えて、教育は「ひと」なり。元気になれる子どもを作り出すのも、元気な子どもを作るのも、教育の相談事業・困ったときの駆け込むオンブズパーソン制度。そこに提案されている子どもの実情をしっかりと把握していければ、鬼に金棒という感じではないでしょうか？

多文化共生の世界を持ち込むこと、自分の言葉で語れる子どもを作り出すこと、そんな学校での集団教育課程で育む策を講じていくことは、大きな成果となるでしょう。その視点で戦略にあげられていない。戦略として掲げられた内容について、弱いと感じることに対してのお考えをお示してください。

第2質問答弁???

5、答弁 基金取り崩しゼロの年度目標設定に関する決意とお考えについて

平成30年度達成率100%新目標、基金の繰り入れをしない。強い意志の目標設定と感じて敬意を表したい。

未利用地の売却を収支均衡になれるための条件としているために、国の金融政策との関連をもろに受けるのではと決意どおりにいくのかといった不安要素はあると思っていました。

社会の変化、的確の対応を求められている。国の政策との関連も出てこようが、そのときには優先順位を定めて、目標どおりにいけるような取り組みをしていきたい。

そういった風の流れ、要因を含めて不安定要素もあると共通認識をしながら、目標を失わずに、市民の幸せを願える市政運営をしていくのだ受け止めて、次に進めます。

6. 答弁 市役所職員に対して、一番力を入れておられることについて

職員数は、計画数は、904人 実質は、939人
再任用は、105人 実質は、75人
合計 1009人 実質は、1016人

近年業務量は増大し、市民のニーズも多様化してきている。なので業務量に応じた人員の配置が必要。弾力化を測る。後期基本計画では再考する。

第2質問 特に人員に対して、今年度臨むに当たって、力を入れられた策は何でしょう？

マンパワーの重要性を感じており、そのための投資が必要である。必要な人員の確保、能力の向上、人材育成を図るために、経営会議・チーム会議を継続して行っていく。

再質問 (意見として) 私はこの質問の答弁のひとつとして、掲げられる施策があると想定をしておりました。

市職員の健康管理をしていく方として、**職員課に一名保健師の配置**をしていかれることを金曜日の総括質問の答弁でも示されました。

職員の体調の管理をしていく方として、学校における保健室の先生の感じで受け止めていますが、そうでしょうか？もしそうであるのなら、様々な市職員のストレスチェックをされた後の取り組みについてなど、お考えを広げていっていただきたいですが、その配置**に対してのお考えをお聞かせください。**

答弁???

7、答弁 民間のノウハウ（PFI手法）をどのように生かされ、取り組まれてこられたのでしょうか？一度は止まって、いいところ・やはりあった悪いところなど整理をしていく必要があるのではないかと考えたのです。

体育館の建設、その後の管理までもゆだねている。資金のやりくりができる。効率的、学校耐震化のときには、エレベーターの建設までも入った。ランニングトラック。維持管理も行ってきた。今後も維持管理していく。水準の向上。モニタリング。PFIでよかったとしている。

再質問 ①地元企業に対しての課題

② 市の職員の技術力アップには、ならないのではないかとといった懸念もあったと記憶しているが、その点ではいかがでしょうか？

第2質問答弁 ①経済が回るよう、それがまちの活性化である。地元企業への仕事を！と動いている。複数の事業者が入札してきている。

②すべてをPFI業者に任せてはいない。職員の素質向上につながっている。市役所内

の技術屋さんには要らないというのではない。

8、答弁 中央公園の運営にも市民参加を継続していくことについて

再質問 市民参加で行う企画運営の継続性の担保は、実に難しいものであると考えられます。そこであえて質問をさせていただきました。

川西市のこれまでの公園にはない運営をされてきている。今の子どもに失われてきている遊び、運動に対して、指導員などを投入され、子どもに遊びのリードをされつつ自発的なものを生み出すしかけ、大いに期待をしたい。

少し視点は違うのですが、今、不安をいっぱいに感じているのは、**周りの環境とのコントラスト**です。ホタル飛び交うまちを創り上げていこうとされ、公園の運営を担おうとする市民団体への要請は、これからだと思われませんが、手渡ししていく段階で、市としてのしっかりしたスタンスを掲げていかなければ、後に続くことはできないと思います。公園内の運用と共に、周辺の地域への絡みは、重要であると思えます。そのことについてのお考えをお聞かせいただければと思います。

『照度について』です。規制は何もできない、ならば「ホタル飛び交う」という設定の条件がうまくいくのかと感じている次第です。

そのあたりのお考えを伺いたい。

第2質問答弁 環境との調整を図りながら、バブル時の開発とは違う！！せせらぎ遊歩道南線のことを言っていると思うが、配慮していく。

9、答弁 市長の目指す「北部の新名神高速道路周辺まちづくり」について

新たな玄関口が生まれる。それが利点となるよう、民間活力での調査を行う。結果要望活力を引き出す。川西の魅力発信の拠点整理をし、雇用の創出。観光や産業にも挑むよう実現したい。

再質問 前の質問と重なるのですが、先日市役所でお出会った新名神高速路で環境の変わった場所にお住まいの方から、『ホタルが飛び交うのがもう見られない』といわれました。中央公園ではホタルがとぶようなどされながら、自然に合った場ではもう飛べなくなっているといわれることには矛盾があります。

ホタル飛び交うまちをつくろうとされているキセラ川西地区内の中央公園。

一方この新名神高速道路建設に絡んで、なくなっていった自然環境については、修復されることはないのでしょうか？かつてホタル飛び交っていた地域に対しての、その視点での取り組みについては？

再質問答弁 地域の活性化、住民の思いに寄り添いながら、環境測定をしていく。地域にあったやり方で進めていきたい。

10. 答弁 県立川西高校の跡地など加茂地域の活用策についての考え方について

認定子ども園の建設を行い、一部を活用する。

再質問 南部のまちづくりとしての大きな地域設定でのお考えは？

再質問答弁 久代・加茂の地域として南部のまちづくりとしての位置づけをしながら、活用策は地元の皆さんの意見を聞いて進めてく。

再々質問 地元意見を聞くという前に、オール川西として、市のリードの中で、市民・地元意見を参画協同の意味をこめて求めてほしい。

市の考えを持つ中で、市民にとっての有効なまちづくりを示していきたい。

11. 答弁 市として、取り組みにあたっての意気込みと考え方について

金融機関・商工団体と連動して、学びあう場・企業準備・起業しやすい環境を作る。

専用のホームページの作成、セミナーの開催など。男女協同参画カレッジでの支援策もある。

第2質問 こういった事業を誘導したいと思われるお考えは、現実の課題・ニーズを考えれば、理解できることです。

しかし川西市において、かつて「アンテナショップ」とはいわないがと説明され、きんたくんグッズなどを売っておられたお店「個々川西」を営みつつ、起業しようとされる方への支援取り組み事業がありました。おそらく応募されたお方は複数名おいでで、70万円(?)の補助金が市からだされた事業でした。事業開始当初、お考えだったより、ずっとずっと、不精巧な事業であったと感じてきました。そのところの総括をされた上での、新規事業であることを期待しますが、その値について、論議されたことなどあるかと思えます。何が問題であったのか、今度の取り組みには生かしていただきたいと臨むものです。総括された内容などお聞かせください。

再質問答弁 『個々かわにしは』物を売る店であって、起業をしたいという人の支援事業ではなかった。

また市直営ではなく、商工の委託事業となっていた。少し違う今年度の取り組みである。

再々質問 すこし市長とは、理解が違っているようです。当時のそれも起業としての事業であったと私は記憶しています。ただいまここでその違いを論議していくことが目的ではありません。お伝えしたいのは、市として女性の労働という視点で起業をしたい女性に、さまざまな事業を実施して聞かれることには大いに賛成ですが、市のその事業への思いと参加する女性の思いに隔たりがないように、まずはしっかりベースをあわせてほしいと思うのです。それができていなかったのではないかと、その事業の総括を伺いたかったのです。これについては予算審査の折にも、言わせていただこうと思いますのでこのあたりで終わります。

企業は人にやれといわれてはじめるものではない。本人に必要な情報の提供をしていく、やろうとする人の支援を行う。

相談にのりながら、やっていく。

12、答弁 「子育て支援包括センター」の設立にむけて、その具体について

妊娠から子育てまで、母子保健・子ども子育て支援としての取り組みである。ワンストップでの取りくみをスタートする。

平成 28 年度関係部署での連携会議を行い、役割・管理などの担当を決めて設置に向けた準備をしていく。

再質問 「相談支援センターの設置」がありました。その部署との違いを伺いたかったのですが、これもまだ進行形の新規事業ですので、詳しくは予算審査時に伺いことにしていきたいと思えます。再質問なし

13. 答弁 市長として、これからの学校教育について、大事だとお考えのことについて

学ぶ権利、質の高い学びを保障しつつ、地域と人との共同で作る充実。

いじめ・不登校・貧困・虐待など新たな時代の能力の必要性を思い、子らへの対応を図りたい。

また教育委員会との共通理解を大切にしている。強化する。育ちを支援していく。

第 2 質問

人口の転入・定住促進、人口減少の抑制、まちの活性化への可能な限りの戦略の重点項目の 2 つの点で、質問させていただいた時に、少し触れさせていただいております。これからの重点は何でしょうか？

1) 教育内容に係る予算の充実・・・今年度分と過去の比較を行いました。

エクセル統計資料紹介。

	28年度		27年度		26年度	
	予算額	構成比	予算額	構成比	予算額	構成比
一般会計総額	53477000		55111000		51998000	
教育委員会	11499349	100	12355241	100	11115565	100
民生費(児童福祉費)	6765940	58.8	6380525	51.6	6238457	56.1
教育費	4733409	41.2	5974716	48.4	4877108	43.9

施設費・生涯学習費を除く		3147467	17.5	3062430	24.8	3042702	17.4
--------------	--	---------	------	---------	------	---------	------

26年度からの予算を振り返ると

教育費に関して言えば、耐震化工事などの施設費や

今年度の加茂遺跡の土地購入など生涯学習費も大きく変化。

その中で教育振興費については、上記表の一番下ラインにあるように、

30億から、30億6千万円になり、今年度は、31億に載った金額が支出可能に。

おっしゃるように教育振興費（上記表の色がけ）の増加があります。建設にかかわる予算の増加がここ数年ありましたが、これからは内容にかかわる予算計上の増加を、これから見ただけですように。

その意味から、子どもの育ちにかける質の保障には、いじめ・不登校などなどのことから、力をつけてやりたいことは以下にあると考えます。

2) ●コミュニケーション能力をよりつけていくための施策が入り用ではないか？演劇があります。自己表現の向上を図るために、専門家によるワークショップを充実させていくことは、川西流積極的方向性だと考えます。

●ICTの活用についてです。かなりの経費が必要とされ、毎年のメンテも入用であると感じます。これからの動きについては、外国語教育の問題・

ICTに係る視点は、個人的に好むと好まざるとに係らずに、通ってゆく道であります。川西の今後の教育の中での位置づけを確立し、予算化していくのか否か、しっかり計画を立てるべきであると思っています。いかがでしょうか？以上2点についての再質問にお答えください。

第2質問答弁

14. 答弁 中学校給食について、今現在、考えられていることについて

教育環境の変化、財政上の問題、総合的に判断。実施方法を検討するために、一定の条件を想定し、その整備にかかわる基本設計費用を計上している。

平成 30 年 2 学期からの M 中学校での給食の実施を予定している。

再質問

これまで長きに渡って、審議会をたちあげられで、審議されてきていた「中学校給食推進基本方針」がありました。そこには自校方式・兄弟方式・親子方式・センター方式・デリバリーなどすべての方法が網羅されており、実行するためにはその金額や各校の土地形状などの実態把握などで示されておりました。どの中学校で学んでも、等しく同じ中学校給食の恩恵を受けていくべきだと思いますし、実施されていく時期もあまり差がないのはいいとも思います。基本設計をしていくといったとき、その基本設計をもって、実施設計へとつきすすむべきものであると認識してはいますが、この M 中学校で、検討するというのは答申からすれば自校方式であろうということは想像できます。

1) 市長には再度伺いますが、実施方法の検討、一定条件とは何を指しておられるのでしょうか？

2) 何のための基本設計なのか、今後、学校内で建設していくのか、否かもめどを立てられずして、基本設計予算化は無謀すぎはしませんか？この学校は、敷地がないので親子にするなどもしあれば、もちろんそうなれば反対意見もあるでしょう、一定の策を示されて後に、すべき予算化であると思うものです。基本設計後、他中学校への対応や当該校の進め方について、どのような展開が待っているのかお伺いいたします。平成 30 年 2 学期からの M 中学校での実施方向で、他中学校の予定を示すべきである。

実施方法とは？一定条件とは？・・・平成 16 年・平成 19 年・平成 25 年と 3 回教育員
会ではアンケートをとった。そして平成 27 年 3 月答申が出て、教育委員会
として基本方針を作り上げた。平成 28 年度その答申を踏まえて基本設計をし
てことにしている。自校方式での基本設計であるが、そのほかの方法も視野に
入れながら、要望も聞きながら進めたい。

再々質問 教育委員会の方針をもって、これから動くものと判断しているし、モデル校では、自校方式の設計であることを当然と思っているが、その後の進め方が不明な中で、単に基本設計を行っても、すべてが次に続くものとは考えにくい。(親子方式も出ていたではないか。) 基本設計をしていく前に、その後の方向性を示してから進めていただきたいと要望し、具体的には予算審査時に意見交換していきたいと思います。ここでは閉じます。

15. 答弁

お出かけ促進事業の段階的組み替えと健康マイレージ制度の関連について

段階的組みかえていく・健幸マイレージ制度の拡充をする・公園の遊具について…健康遊具との関連で考える・きんたくん健幸体操についてと掲げられております。これまでのお出かけ支援の事業との違いは何ですか？今後の展開についてなどお聞かせください。幼児の公園遊具と健康遊具との関連について

再質問

1) わが会派からは、これまでもお出かけ促進事業として 75 歳以上のお元気な高齢者に 3000 円の補助を示していかれた施策については、一考の余地ありとしてきました。当初、おばあちゃんが、活用するのではなく、孫が使っている実態などが指摘されたり、こども・若もの施策に対し、もっと力を入れてほしい、毎年 7000 万円ほどの費用が、市費から支出されていることに対し、いったんここで立ち止まってといった議論にも参加してきました。

今年度に、これに対しての新施策が入り込んできていますことには評価もしています。

しかし、例えば、約 1400 人が対象となること、つまりは該当するご高齢の方すべてに対して、とられていた策が 40 歳以上となり、基準も変わっていくことに対し、これまでの施策については一定閉じていくということに対し、評価と説明責任は問われていると思います。そのことについてお伺いいたしたいです。

2) 健康遊具の展開が示されています。必要になってきていることの実感もありますが、幼児の公園遊具の進捗はどうなっていくのか。中断はしないでいただきたいが。幼児の公園遊具の進捗とこれからつけていく健康遊具との関連について再度伺いたい。「地元の意見をしっかり聞いて・・・」という言葉の前提には、市としての考え方があってこそその意見を求めることであると。出なければどこの公園も同じ遊具になりかねない。その問題をどうクリアしていくのか課題です。

16、答弁 市立川西病院のあり方について、これから考える方向性について

国は病床数を 134 万床と見て 2025 年度に向けて 110 万床に減らす方向になる。経営健全化計画として、これから 5 年間の策定をしていく。県の地域医療構想に絡めて、病床数など今後の手続きの検討を行う。「公の病院としては大きな問題があるのも事実です。」と市長発言。計画は屋上屋にならぬよう取り組みたい。

再質問

1) 「病院運営も回復傾向にある」と資料の紹介も受け、今度こそはと臨む。しかしまた違った難問が目前に出る、その繰り返し出会ったことが、今議会の議案第 7 号にも述べられています。課題を共有できるような計らい、人がどう考え動くのかといった「人の問題」は実に大きいと今更ながらの詞ですが、実感します。

2) 今後の議論を要する大きな課題であります。しばらくの間は、立て直しを図ってきたことを続けていくことであることは承知しています。北部に総合診療病院の存在が必要であることは、考えるスタートの原点であると考えます。公であるべきなのか、市立であるべきか、1市3町の設立であるべきか、民間で行っていただくことでもいいのかも踏まえての議論の展開について、お考えを伺いたいです。再度お願いをいたします

17. 答弁 地域自治会の在り方と現状について

コミュニティ組織との役割分担を計りながら、役割を明記してきたところ です。以下に若者世代の加入を取り込むのか、平成 27 年度から自治会長会議を開催し、活性化に向けての会議をし、情報発信もしてきている。引き続きおこなっていく。

再質問

自治会のあり方講座？

意識を高める方策について・・・

しかし今、

自治会はここまでして行ければいいあとの線引きをし、あり方を求める方向で、リーダーを育てていく作業が行政側で、必要ではないのか。

- ・ゴミステーションは、自治会長から申し出て行う。
- ・街灯が不足している、夜の道の安全確保に設置を求める。
- ・地域で工事が行われる時、必ず自治会長に説明をすること、

しかし自治会がないところで業者は誰にいうのか。一軒一軒回るのか。

そこには、漏れが出てくる。

自治会の存在は、実に大きいものであるということを、最初に戻って、徹底・周知して行く状態が行政にも必要である。

知らないことが多すぎる、だからしっかりコミュニティ誌の発行を心掛ける。糸口を創り出す。

18. 答弁 防犯カメラ設置について

- ① これまで取り付けておられる地域もある中での、設置の在り方について
- ② 防犯カメラ設置の取り組みの具体的な内容と進め方について

各地域事情が異なることから、実情を踏まえて、団体・警察との協議もしながら、プライバシーの件も考えながら進めていく。
犯罪の未然防止になるであろうし、小学校の通学路に設置していきたい。

再質問

情報についての規制などの確認事項についてはどうされていますか？

設置の仕方についての考えは？どこにつけていくのか？

どのようなカメラになるのか（上書きで進んでいくのか。ライブでその映像が見れるのか？）など疑問点

（例）認知症の高齢者のいなくなった状況。

19、答弁

1) 認定こども園の運営と今後のその在り方について

平成 25 年市の幼稚園・と保育所と合同で、運営についての会合を設けて、方向を持ってきている。

現場職員・事務職員・などかかわる方すべてで、3つの班を作り、幼・保の一体化施設の節義や運営面での会合を持ってきている。

2) グリーンハイツ（民間）・加茂地域（公立）での認定こども園の進捗について

↓

平成 29 年 4 月開設

平成 28 年 2 月末公募

協議会開催する（3月7日）

↓

今、体験交流が交わされている。

平成 28 年設計。整備の概要については、常任委員

再質問

民間ではない、公立で、認定こども園計画に、初めには2か所で、挑もうと決断されたことに敬意を表しています。何よりも困難を知りながらの動きでありましょう。子どもに向き合う視点・運営の仕方・働く条件等々異なっていると考えます。専門職ですから、子どもにとっての最善の共有については、議論ができて、そこに派生する事柄に、対応できる方向は、違っているかもしれませんが、始まって議論をしていくことにならなければなりません。それには十分なる職員の配置が望まれます。その為の会議の時間設定や事務をする煩雑さは、それはそれは大変なものであると、視察でも伺いました。しばらくの間、なじむまでの間、特別な市職員の配置を試みていただく配慮をお願いをしたいと思うものです。時間を取って

他市を訪問し、我々も学びつつあります。川西市での新しい保育所と幼稚園の合体する認定こども園構想に対し、知り得た情報の共有を図りながら、支援をしていける体制を取っていただきたいと感じております。そのことについて、要望とします。

20. 答弁 加茂遺跡・郷土館・時代を想起させる風格の黒川公民館等の保存の

在り方について、今後の進め方について

加茂神社、加茂遺跡は、全国でも著名な、弥生遺跡。策定中。明らかにする。地域との連携も行う。

また郷土館は、大正末期のもので、山下・下財で精錬所跡など、北部の魅力の資源である。文化価値が損なわれぬよう、建物の維持管理を行い土地活用を考え、入館者の利便性学習も行ってきている・を考えて、今回土地購入をする。

黒川公民館は、県指定の史跡で、NPOなどエドヒガン・炭焼きで、里山体験学習小学4年生に行っている。今後ダリア園も観光地として取り組む。

21. 答弁

1) 「(仮称) 市民の幸せ憲章」作成にあたっての考え方について

昭和33年に制定。現在にそぐわない。見直しをするべきである。

平成28年市議会からの意見をもらい、付属機関を設置して、パブコメを求める。

平成28年度末、新憲章を提示できる予定。

市民の誇り、親しみ、郷土愛、を持てるよう作っていく。

2) 「市歌」の扱いについて

今後のこととして今は不明。考えていない。

再質問

市民の有るべき姿、地域分権、主体者であるのは市民、その思いを伝えるものであってほしい。自治会組織の不完全さが叫ばれる時、そこにメスを入れた、市民自治意識を喚起できうる文言を入れ込んでほしいと願います。

2月27日の新聞で、前国連事務総長のアナン氏が、論じていました記事に、

「今こそ、市民が動く時だ」の見出しで、述べておられました。

リーダーたちが、本当の意味で人々を導くために、市民はどう手を貸せるのかいくつか答えを示したい。として、

① 複数政党政治の国にいるのなら、投票すべきだ。多くの国で、若者たちが民主主義の権利を行使していない。(エイズとの戦いで、市民の動きを語っている。)

② 消費者としての力も使うべきだ。(何が問題なのかを設定できる)

自分たちの役割を重視すべきだ。

「悪人が目標を達成するために求める唯一のことは、善人が黙して何もしないことだ。」と最後に哲学者ジョン・スチュアート・ミルが 150 年前に言った言葉を添えていた。

最後には質問ではなく、会派からの意見として述べることを！！！！

たくさんの案件の中から 21 項目を選んで、総括質問をさせていただきました。

頂きましたご答弁、真摯に受け止めて頂きました。有難く存じます。

その上で、「説明責任」という部分で、最後には要望をしておきたいと思います。

学校の統廃合・幼稚園、保育所の統廃合・公共施設の再配置計画等、新たな課題に挑戦していく年度であります。人口減少に歯止めをかけるというスタンスを持ち出して、果敢に挑もうとされている年度でもあります。

説明をしてもまだ残る異なる意見・わかっていただけない議論・思いに対し、どうしていくのかが大きな分かれ目であると思えます。

納得いくまでの議論でも、100%達成までは難しいかと思われま

しかし市としては動かさなければならない、「ここまでやった、個々では理解いただけないことがあったにしても、それに対しての意見も伝えた。ここが議論の分かれ目であった。」というギリギリのところまで言った時、市長として、胸張って、オール川西として、決裁していただく。

あとの日程予定ありきの意見交換では、あまりにむなしではありませんか。これから続くであります市民意見を求める判断に対し、顔の見える決定をしてほしいと願います。丁寧なる議論をし尽くすこと、共に力あわせをまいります。以上、私から市長施政方針に対する総括質問を終えさせていただきます。ありがとうございました。